

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202915		
法人名	有限会社 ウエルコ		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目5番22号 (電話) 011-774-5517		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年5月11日	評価確定日	平成21年5月19日

【情報提供票より】 (平成21年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年3月31日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算15.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2, 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費:20,000円	
敷金	有()円	無	暖房費(11~4月):15,000円	
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2歳	最低	62歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おちあい内科・消化器科医院 倉田内科医院 平川歯科 フォース歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム かがやき」は、JR駅近くの商店街に立地している。建物は2階と3階が当ホームで、1階はコンビニエンスストアになっている。ホームの窓からは、店への出入りや行き交う人を眺めることができる。運営者は家族の入院体験から、認知症になっても地域の中でその人らしく生活でき、家族の痛みが分かる温かいホームを目指し平成18年に開設した。3年が経過し、管理者と職員は隣近所の人との日常的な交流を多くもち、利用者を主体にした生活を一緒に作り上げることを大切にしている。利用者は料理作りに参加したり、外食、買い物、ドライブなどを楽しんでいる。他者を気遣う利用者の笑顔があり、明るく穏やかに過ごしている。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題である、運営推進会議の内容、開催回数については継続して検討中である。避難訓練は消防署の指導と自主訓練を行い、1階店舗の協力も得られている。近隣との協力体制を作り防災への対策を進めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の作成は、新人と経験のある職員との組み合わせで話し合い、実践していること、取り組みたいことを項目ごとに記入し、それらを管理者がまとめた。サービス評価の実施は、今後の取り組みの目標が設定でき有効と捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 昨年は運営推進会議を3回開催し、事業所の運営状況、利用者の暮らし、火災時の対応について報告している。外部評価の結果も報告している。運営推進会議は外部者の視点が見られる貴重な機会であり、会議での助言を生かすように努めている。会議開催の回数を増やし、効果的な方法で内容を充実させたいと進めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 行事の写真を中心にした「かがやき タイムス」を3ヶ月ごとに発行し、健康、暮らしの様子を報告する「個人へのたより」を添えて送っている。管理者は「お世話になっている」との家族の心情を察し、来訪時には十分な時間をとって意見を聞くように努めている。家族の何気ない言葉も意見として記録に残し、職員間で話し合い、サービスに活かせるような工夫も考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会、商店街などの3ヶ所のお祭りに参加し住民との交流が得られている。また近くにある保育園の遊戯会や運動会に招かれ、園児との交流を楽しみにしている。またホーム行事の際には、住民や保育園児を招き、相互の交流を考えている。当事業所は商店街にあり、地域住民との交流は日常的に行われている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの、利用者の主体性を尊重した支援、安心できる家庭的な環境の提供、地域社会とのつながりを重視した暮らしの継続という、3点を盛り込んだ事業所理念がある。その実践に各ユニットはケア理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、居間に掲げ、名刺の裏に記載し、来訪者や職員に周知している。利用者が生き生きと、和気あいあいと、笑いがある日々を過ごしているかを申し送り時やユニット会議で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、商店街などの3ヶ所のお祭りに参加し住民と交流をしている。また近くにある保育園の遊戯会や運動会に招かれ、園児との交流を楽しみにしている。当事業所は駅近くの商店街にあり、地域住民との付き合いは日常的にある。	○	近隣との日常的な交流を深め、防災害の協力など、利用者の暮らしを幅広く支える地域との協力体制に期待したい。また当事業所の行事にも住民や保育園児を招くなど、相互の交流にも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成は、新人と経験のある職員との組み合わせで話し合い、実践していること、取り組みたいことを項目ごとに記入し、それらを管理者がまとめた。外部評価の結果後に、自己評価についても会議で話し合う予定である。サービス評価の実施は、今後の取り組みの目標が設定でき有効と捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は運営推進会議を3回開催し、事業所の運営状況、利用者の暮らし、火災時の対応について報告している。外部評価の結果も報告している。運営推進会議は外部者の視点が見られる貴重な機会であり、会議での助言を生かすように努めている。	○	会議開催への工夫で、回数を増やし、効果的な方法で内容を充実させたいと考えているので、その取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務的な内容は電話やFAXで、市・区の担当者に相談していることが多い。市で主催する研修や会議には積極的に参加し情報を得ている。区の担当者には制度利用の相談をし、利用者の経済的な負担の軽減に配慮している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事の写真を中心にした「かがやき タイムス」を3ヶ月ごとに発行し、健康、暮らしの様子を報告する「個人へのたより」を添えて送っている。緊急時には電話で報告しており、来訪時には本人の様子を伝え、金銭、職員の異動についても報告している。今後は便りの発行回数や職員の異動も載せるような紙面づくりを考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は「お世話になっている」との家族の心情を察し、来訪時には時間をたっぷり取って意見を聞くように努めている。また家族には馴染みの職員がコミュニケーションを多くとり、率直な意見が表明できるように対応している。	○	家族の意見を吸い上げるために、何気なく話す意見、要望など、ささいな言葉も記録に残し、職員間で話し合いサービスに生かせるような工夫に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が働きやすいように常に配慮し、利用者との馴染みの関係に留意している。離職時には、新しい職員と一緒に業務の引き継ぎができるように雇用調整にも努めている。理解のある利用者には辞めることを説明し、会話や気分転換を図り、利用者の気持ちに沿って対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に努め、研修参加は業務扱いにし、費用を負担している。経験年数に応じ、市主催の認知症介護実践研修、北海道グループホーム会の研修に参加し、外部研修の内容は報告書にまとめ閲覧で共有している。新人は先輩職員に教わり、1ヶ月ほど一緒に行動し業務に就いている。	○	今年度は内部研修に力を入れ、職員が学びたいテーマを検討し、年間計画を策定したいとのことなので、業務の中で日々学んでいく環境作りに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム管理者連絡会には、職員も勉強会に参加し情報を得ている。また近隣のグループホームとで相互訪問や情報交換を交わし、利用者も近隣にあるグループホームの夏祭りに出かけ、一緒に楽しんでいる。近隣地域に5ヶ所のグループホームがあるので交流の持ち方を考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際に、家族、本人の見学を勧め、また管理者と職員は訪問し、顔馴染みを作る中で本人のニーズを探り、安心できるように対応している。入居後は訪問した職員を配置し、慣れるまでは家族の来訪を多くし共に過ごすように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活する関係を大切にしている。コミュニケーションを図り、夜勤のときには個別にゆっくりと話を聞いている。普段の会話でことわざを教えてもらい、料理を一緒に行う中でも学ぶことは多い。常に、職員に対し、労いや感謝の言葉があり、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を引き出し、介護計画にも載せている。墓参りに行きたい、馴染みの土地で花を見たいなど、その人らしい思いを継続できるように努めている。表現できない人には目や表情をみてジェスチャーをしながら確認し、その思いを職員間で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規の介護計画は、医療関係者からの情報や、本人、家族の希望や意向を聞き、客観的に見た評価で作成している。介護計画は、本人が見てもわかるように作成して、本人と家族に説明を行い確認印と署名を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。骨折などによる入退院や食欲が落ちてきた時、その他身体状況に変化が生じた時など、随時現状に即した新たな計画を作成している。家族との話し合いのもと、認知症に対する家族のとらえ方や理解度が深まった時なども、相談のもと新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っている。入院を回避して毎日点滴を行うのに送迎したり、看護師が付いて事業所で点滴を行ったりしている。事業所専用車で、利用者の要望に柔軟に対応して外出支援を行っている。今後はAEDを設置し、地域住民にも活用してもらう予定である。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医は、利用者や家族の意向で継続は可能である。かかりつけ医への受診送迎は必要に応じて家族も同行するが、主に事業所で行い、適切な医療が受けられるようにかかりつけ医との関係を深めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針を作成し、利用開始時に説明を行っている。看取りに関しての書類には、利用開始後の健康状況に応じて署名を得ている。家族の来訪時には、食事摂取が出来なくなったらどうするかなど、状況を話しながら重度化や終末期に向けた具体的な話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には常に尊敬の気持ちで接し、言葉がけは、語尾を柔らかくするなどの配慮をしている。排泄誘導は耳元で言葉がけをし、トイレでもカーテンを閉めて待機するように配慮している。個人記録は、事務所とスタッフルームで鍵をかけて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の主な日課は決まっているが、読書をする、テレビを見る、ラジオを聞くなど利用者の希望に応じて日々過ごせるように支援している。個別の買い物や外出などにも可能な限り対応し、対応が直ぐ出来ない場合は、状況を説明して納得してもらうようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は食材業者が作成しているが、利用者の好みに合わせて献立を変更し、利用者と一緒に食材の買い物に出かける事もある。もやしの根取り、野菜の皮むき、味付けや盛り付け、下膳など利用者と一緒にしている。職員も利用者と共に同じテーブルで楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、日曜日以外で一人週2回以上を目標に、午前中と午後で利用者の希望に応じて行っている。異性介助は、利用者の意向を聞き配慮している。午後になると血圧が高くなったり不穏になる利用者は、午前中に入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の検品、食事時に箸を揃える、おしぼりの準備、毎月のカレンダーを変えたり日めくりをめくるなど、それぞれの利用者に応じて役割を持って生活している。編み物やカラオケ、茶道、読書など個別の楽しみ事や気晴らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外、天気の良い日は毎日利用者の体調に合わせて公園に行ったり、遊歩道を散歩している。車椅子の利用者も一緒に外出している。冬季は通院時に外食したり、下のコンビニや大型ショッピングセンターに買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やユニットの出入りは、スタッフルームで把握して安全面に配慮しているため、施錠はしていない。利用者が外出した時は、声かけをして一緒に出かけたりしている。今後は、下のコンビニにも見守りの声かけをして行く予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回、自主訓練と消防署の指導のもと、利用者も参加して避難訓練を行っている。昨年は夜間を想定した避難訓練を行い、下のコンビニとの連絡網を作成している。運営推進会議で災害対策を議題に取り上げ、地域との連携を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員記録している。水分摂取量は、摂取量が少ない人や排泄コントロールが出来ない人のみ記録している。食事や水分の摂取量が少ない時は、パンやスープ、コーヒーや乳酸菌飲料など好みの物で摂取出来るように支援している。	○	今後は、利用者全員分の水分摂取を記録して、更なる健康管理への配慮ができるよう期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には明るい光が入り、季節感が感じられるような季節の花や装飾がなされ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。手作りカレンダーや日めくりが飾られている。居間からは、台所での食事の準備の様子や料理の匂いを感じる事が出来るなど、生活感が感じられるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には、利用者が職員と一緒に制作した表札と写真が飾られている。居室内には、箆笥やテレビ、椅子や冷蔵庫など使い慣れた物や好みの家具などが配置され、それぞれの利用者が居心地良く、落ち着いて過ごせるような工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。